



The
Proud
Book

技術の発展と共に歩む

IPOC 40th

一般財団法人 工業所有権協力センター



日々、解し、求め、定め、記し、示す。
それらは、やがて、未来を照らし出す。



私たちが照らすのは、
発明者たちの足跡、
そして未来。

発明は、多くの先人たちの発明の積み重ねを糧に、未来を切り拓こうと努力する発明者たちの汗と涙の結晶として、生まれてきます。

この多くの発明者たちの「足跡」に光を当て、新たに生まれてきた発明の本質的な新しさや将来性、つまりイノベーションの「未来」への道を照らし出す。それこそが、私たちの存在意義。

あらゆる技術分野に精通した豊富な人材と、1985年の創業以来、特許審査を支えてきた豊富な経験に裏付けられた「技術力」、「検索力」、「解説力」。

これらの強みを併せもつ唯一無二の存在として、私たちは、今日も発明者たちの情熱に向き合う。

このような想いを込めました。

2025年の創立40周年を機に社会貢献性、強み、そして人材に重きを置いて「新・経営理念」を策定しました。全ての役職員は、この「新・経営理念」を常に立ち返るべき拠りどころとし、より良い未来へ向けて、皆でIPCCの次のステージを創り上げていきます。

01 ミッション — IPCCの存在意義(Why)

私たちは、唯一無二の技術力・検索力・解説力で知的財産を「可視化」し、イノベーションの創出を支援することで「知的財産立国」の実現に貢献します。



Mission



Vision

Value

03 バリュー — IPCCが尊重する価値観(How)

公正を重んずる精神
迅速的確なる業務遂行
自ら進歩し変革する意思
互いに助け合い思いやる心

02 ビジョン — IPCCのありたい姿(What)

1. 事業 「イノベーションのインフラストラクチャー」として、あらゆる顧客から選ばれる世界最高水準のサービスを提供します。
2. 人材 価値創造の根源たる人材が「誇り」をもち、心豊かに働く組織文化を育みます。
3. 基盤 財務状況が安定し、システムが効率的に活用され、セキュリティが十分に確保されている、確固たる組織基盤を築きます。



創立40周年を迎えて ～ひとりひとりが未来を切り拓く～

理事長 鈴木 隆史

創立40周年を迎えるにあたり、これまでのIPCCの歩みを支えてくださったすべての方々に心より感謝申し上げます。

40年の歩みと展開

これまで、IPCCは一貫して「知的財産立国への貢献」という使命のもと、特許制度を支える先行技術調査や分類付与に取り組んできました。この間、IPCCは多彩な経歴を持つ技術者が千数百名在籍する多様性に富んだ組織に成長し、また、特許庁だけでなく企業や大学など多岐にわたるお客様に向けてサービスを展開するようになりました。一方、産業構造の

変化やAIの進化など、IPCCをとりまく環境は急速に変化しています。

変化をチャンスに、 新たな発展のステージへ

この変化を、むしろ発展へのチャンスととらえたい。そこで、この創立40周年の機会をとらえ、IPCCの使命である「知的財産立国への貢献」を再定義した新・経営理念を策定しました。IPCC職員である皆さんひとりひとりがそれぞれの力を最大限に発揮してIPCCの未来を切り拓いていくために、この新たな経営理念を念頭に、目指すべき姿を再確認していただきたいと考えています。

このブランド・リーフレット「The Proud Book」には、新・経営理念をはじめ、IPCCが培ってきた強みを証明するさまざまなデータや、現役職員やOB職員の声、さらには特許庁の審査官や法人の皆様からの貴重なコメントも掲載されています。これらを通じて、IPCCの仕事が多くの方々に喜ばれ社会に貢献していること、そしてそのことがすなわちIPCCの存在意義であり、私たち皆が果たすべき使命であることを感じていただければ幸いです。

IPCCの新たな発展のステージを、職員の皆さん、そしてIPCCに関わるすべての方々と共に築いていくことを楽しみにしています。

経営理念を見直すきっかけは何だったのでしょうか？

皆さんは「経営理念」を意識したことはありますか？私たちは中長期の経営指針を検討する際に、初めてきちんと(旧)経営理念(2003年4月制定)を読み返しました。でも、「知的財産立国への貢献」はピンときませんし、残りは行動指針のように感じました。また、時代の変化とともに、私たちの存在意義やありたい姿も改めて問い直すべきではないか、と思い始めました。ちょうどそのとき、「そもそもIPCCは何のために存在しているのか」をつき詰めて考える機会があったことも大きかったですね。

策定の過程で悩んだこと、大切にしたいことは何ですか？

やはり「言語化」ですね。私たちがどう「知財立国」に貢献しているのか。特許庁の審査に貢献しているなら、特許庁の審査は何に？法人のお客様には？など、仕事の本質的な意義について、何度も考えました。

たどり着いた答えは、知財の「可視化」。私たちの仕事は、発明の背景を紐解きその価値を明らかにすること。

そして、このミッションを支える多様で経験豊富な「人」こそがIPCCの価値。そこで、モットーにある「心豊か」「互助」といった表現を、ビジョンやバリューに盛り込みました。

担当者としての思いを聞かせてください！

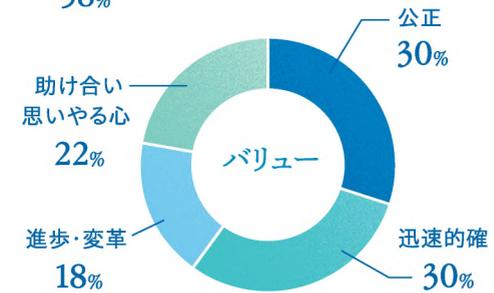
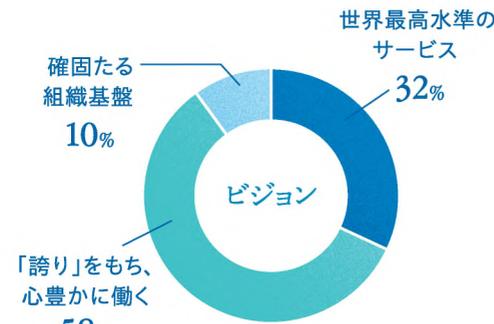
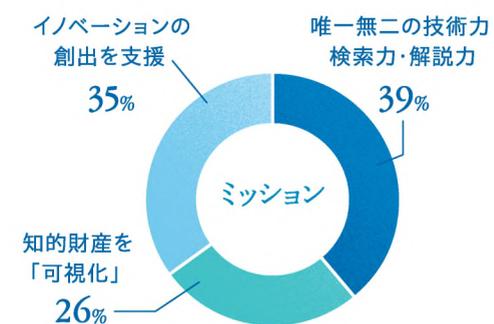
経営理念の刷新は、どうしたら私たちが「自分ごと」として意識できるのか？IPCC内外に向けて生まれ変わろうとしている姿勢を示せるのか？を考えて、上層部にボトムアップで提案することで実現しました。IPCCの皆さんに、自らの働く意味を照らし出す灯台のような拠りどころにさせていただけるととても嬉しいです。



40周年記念プロジェクト実行委員会 インナーブランディングWG 制作メンバー

MVVで特に共感する項目は？

< 職員アンケートより >



IPCCのロゴはデザイン事務所によって作成され、その後役職員の努力によって築き上げた財団の信頼性を表す商標として、幅広く役立てられています。また、40周年の節目にあたり、財団のイメージを内外に示すことを目的として、コーポレートカラーを選定しました。



登録商標 6421631号 / 登録商標2054976号 / 登録商標3013741号

一般財団法人 工業所有権協力センター
Industrial Property Cooperation Center

登録商標 6164936号

メインカラー：瑠璃色

「瑠璃色」は、深い海や果てしない宇宙。IPCCの深い知識・専門性をもって、技術情報の海・宇宙から宝物や輝く星を見つけ出すイメージとして選定。

双方に共通する「青」により、公正さ、誠実さ、信頼性を表現しました。

サブカラー：空色 / 天色

「空色」は、大きくひろがる空。無限の可能性と未来への希望をもって、空に羽ばたくイメージとして選定。

技術の発展と 共に歩んで40年

1985年に誕生したIPCC。今や400万件を超える調査報告書も、数千万件の分類付与も、最初の1件から始まりました。年齢も出身企業も違う職員が、「発明に関わる人々の力になりたい」という思いを共有し、助け合いながら、ひたむきに積み重ねた1件1件は、これからも発明の未来を照らし続けます。

財団法人工業所有権
協力センター設立

12月3日に公益法人(財団法人)
として設立されました。

1985



特許検索競技大会の
主催を開始

10月26日に、主催者として
はじめての特許検索競技大会
を開催しました。

2013



新・経営理念の策定

大阪分室の開設

2025

1989



先行技術調査業務を
本格開始

4月1日より先行技術調査業務を
本格開始し、4月5日に検索報告
書第1号が作成されました。

2009

一般財団法人に移行

2004

指定調査機関から
登録調査機関へ

2000

特許分類とFタームとの
一元的付与業務を本格開始

2010



オフィスを木場に統合

錦糸町と虎ノ門に分かれていた
オフィスが江東区木場の「深川
ギャザリアウエスト3棟」に統合
しました。

2020



オンラインによる対話型
検索報告への移行

新型コロナウイルス感染症対策
として、対面からオンラインに
よる対話型検索報告がメイン
となりました。

IPCCが歩んできた軌跡を示すデータについて、人材・事業といった観点でわかりやすく紹介します。

IPCCが誇る人材

16人の役職員からはじまったIPCC。40年が経過した今も、多様な役職員が組織を力強く支えています。



役職員数

1400人超

※2025年2月時点



出身企業数

340社超

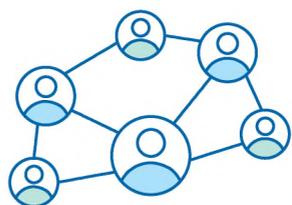
※2025年2月時点



博士号保有者

153人

※2025年2月時点



同好会員数

1525人

※財団OB等・重複含む。2024年4月時点



業績優秀者表彰実績

(調査品質・業務効率化等)

329人・22団体

※2013年度～2024年度(延べ数)

特許庁向け事業

1985年の創立以来、国内最大の特許調査機関として、専門技術者のもつ唯一無二の技術力・検索力・解説力を生かし、発明の利用性を高める分類付与と、発明の創造性・価値を明らかにする先行技術文献調査を行っています。



特許庁向け先行技術文献調査

業界シェア率 **No.1**

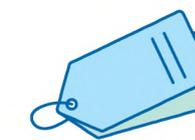
※2024年度



先行技術文献調査件数

400万件超 (累計)

※2025年2月時点



日本特許出願に対する

分類付与 **Only 1**

法人向けサービス

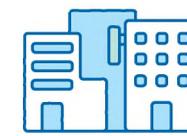
2015年から開始した法人向けの調査サービスは、高い品質と幅広い技術分野への対応が強みです。



受注件数

7000件超 (累計)

※2025年2月時点



顧客数

300社超

※2025年2月時点



参加者数

6200人超 (延べ数)

※2025年2月時点



認定証交付者数

2300人超 (延べ数)

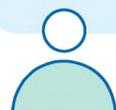
※一定の成績を取めた参加者に交付
※2025年2月時点

特許検索競技大会

2013年から特許検索競技大会を主催しています。特許調査能力向上の機会として、多くの皆様に参加いただいています。

丁寧な調査と分かりやすい報告書

本願や提示文献を的確に説明していただき、疑問点があっても即座に回答していただけるため、スムーズに内容を把握してファーストアクションの方向性を検討することができます。加えて検索者様が作成される検索報告書や提示文献への書き込みは的確にまとめられているため、ファーストアクションのみならずセカンドアクション以降も参照し、素早く内容を把握することができます。検索者様の丁寧な調査と分かりやすい報告書があるからこそ、審査官は迅速で公正な判断を下すことができいております。



特許庁
審査第一部 審査官 Y.K 様

専門的な知識と的確な回答

検索者の皆様、日々のご尽力に心より感謝いたします。審査において、皆様との対話が非常に助けになっております。対話を始めて間もなかった頃に、私が本願の技術について質問したところ、関連する先行技術の具体的な事例を挙げながら、検索者の方は非常に丁寧に説明してくださいました。特に、過去の特許出願の中で類似の技術がどのように評価されたかを示してください、その情報が理解をより深める助けとなりました。皆様の専門的な知識と的確な回答が、私たちの審査業務を支える大きな力となっております。



特許庁
審査第二部 審査官 S.T 様

技術に詳しい検索者様からの報告や指摘

日頃の審査において、技術に詳しい検索者様からの報告や指摘には大変助かっております。特許出願に関連する技術について、検索者様が「この技術は過去に特許化された技術と、実質的に同一ではないか」と指摘してくださいました。その際、提示文献には、新規性・進歩性が否定され得る重要な情報が記載されており、その後の特許性の判断において非常に参考となりました。皆様のおかげで、私たちは審査業務をよりスムーズに行うことができいております。今後も共に協力し、さらなる特許行政の発展に向けて邁進していけることを願っています。



特許庁
審査第三部 上席審査官 M.A 様

審査の進行を円滑にするサポート

最近、特許出願の審査を行っていた際、皆様の丁寧な対応が非常に助けになりました。具体的には、私が特定の技術に関する追加情報を求めたところ、検索者様は迅速に関連する文献を調査し、必要としていた情報を詳細にまとめて提供してくださいました。その際、「この文献の重要なポイントはここです」と具体的に指摘してください、疑問を解消するだけでなく、審査の進行を円滑にするための助けとなりました。このように、皆様のサポートが私たちの業務を支える大きな力となっております。



特許庁
審査第四部 審査官 M.S 様

顧客にとって理解し易い報告書

弊社は主に特定登録調査を依頼しており、調査結果は弊社の出願戦略の策定時に有効な情報として利用しています。調査可能分野が一部を除く全分野であること、特許庁の審査官が使用している検索システムを用いられていること、調査報告書の内容が充実していることにメリットを感じています。特に、調査報告書内の検索論理式においては、発明を多方面で捉え網羅性が考慮された調査テーマを設定いただき、総合コメント、本願発明との対比においてはユーザーにとって理解し易い記述になっていると感じました。



旭化成株式会社
研究・開発本部 知的財産部

重要な局面で欠かすことのできないサービス

大学において、産学連携や知財管理の必要性が叫ばれて、長い年月が経とうとしております。このような状況で、国立大学法人の中でそれほど大きな規模ではない弊学においても、PCT出願等の是非を判断する際に、より精緻な先行技術調査を行うことの必要性が日々高まっております。IPCCの調査は、適切な範囲において、しっかりとした調査が行われており、また、特許性の判断の参考となる資料も充実していることから、弊学にとって重要な局面で欠かすことのできない、信頼できるサービスとなっております。



国立大学法人香川大学
産学連携・知的財産センター

IPCCは知財活用を支えるパートナー

創立40周年おめでとうございます。近年は日本でも産学連携や大学発スタートアップの動きが進み、大学における知財の重要性が急速に増えています。大阪大学も国際的に強い特許を積極的に取得しており、2023年国際特許出願(PCT出願)公開件数大学ランキングで国内トップ・世界10位となっておりますが、PCT出願へ進むか判断する際にIPCC作成のサーチレポートを参考にさせていただいています。これまでのIPCCのサポートに感謝するとともに、これからも本学のイノベーションを支えるパートナーとして頼りにしています。



国立大学法人大阪大学
共創機構 イノベーション戦略部門 知的財産室

幅広い調査分野と、丁寧な記載の報告書

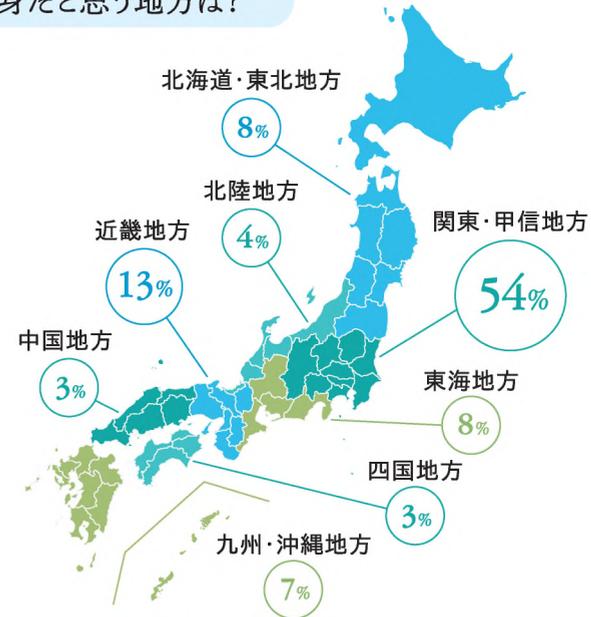
当社は、建設機械の開発、製造、販売を行っており、近年は特にゼロエミ技術やICT、自動化等の技術やソリューションの技術開発を行っています。当社は、2017年から国内出願の審査請求や国外出願の可否判断を目的に、特定登録調査を利用しています。IPCCは、幅広い分野をカバーしており、当社技術の全てが調査可能です。調査結果も、抽出文献への発明該当箇所の明示や、対象発明の構成毎の対比を元に結果説明が丁寧に記載され、可否判断や補正を検討する際のポイントが絞り易く大変役立っています。



日立建機株式会社
研究・開発本部 知的財産部

「座右の銘」や「大切にしている時間」など、職員の相互理解、話題のきっかけになる内容をテーマに、全職員向けアンケートを実施しました。

出身だと思う地方は？



自分の性格にあてはまるものは？

聞き上手
正義感が強い
行動力がある
先見性がある

ポジティブ 向上心がある
協調性がある
計画的 責任感が強い

独創的
諦めない
社交性が高い

思いやりがある
用心深い
リーダーシップがある

座右の銘は？

人事を尽くして天命を待つ
和を以て貴しとなす

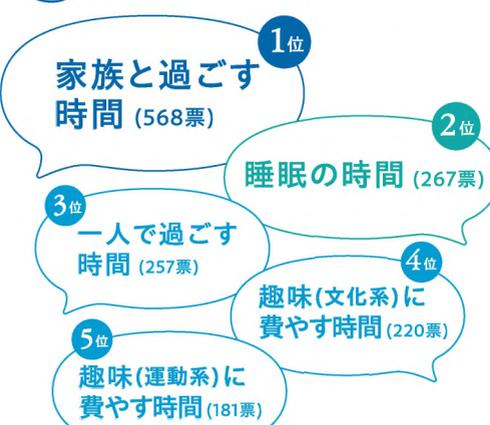
為せば成る
七転び八起き 何事も楽しむ 臨機応変 一期一会

努力は報われる 塞翁が馬 転石苔を生ぜず
誠心誠意 **継続は力なり** 日々精進 健康第一

生きてるだけで丸儲け 石の上にも三年 初心忘るべからず
過ぎたるは及ばざるが如し 人生に定年無し
面白い仕事はそうそう転がっていないが、「面白く仕事をする人」はいる。



大切にしている時間は？

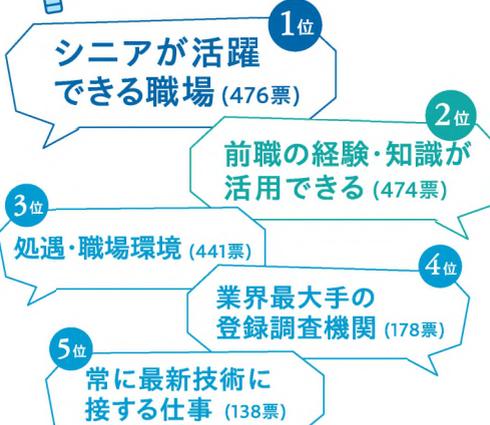


その他

食事の時間/友人と過ごす時間/お酒の時間/仕事の時間/趣味(その他)に費やす時間/学びの時間/お茶・コーヒーやお菓子の時間/通勤の時間/仕事の合間の休憩時間/動物と過ごす時間 など



入団時に重視したポイントは？



その他

社会的貢献度が高い/知的財産権保護に関わる業務内容/多種多様な同好会活動/全技術分野に対応する機関/唯一の分類付与受注機関 など



いま取り組んでいる運動は？



※散歩・ぶらぶら歩き・一駅歩き・階段昇降などを含む

その他

自転車/陸上スポーツ(登山・ハイキング・スケートボードなど)/ウォータースポーツ/球技(集団)/ウインタースポーツ/武道・武術(太極拳を含む)/ダンス/スカイスポーツ/アーチェリー など



仕事を進めるうえで大切だと思うことは？

出願人がどれだけ苦労して実験、研究を積み重ねて出願まで至ったのかに寄り添う気持ちを持ち、どういう技術の特許化したいと思っているのかを考えるようにしています。(技術系職員) / 杓子定期的なやり方ではなく、プロフェッショナルとしてのこだわり、誇りをもってやる。職人気質的な仕事のやり方を目指しています。(技術系職員) / 仕事を進める上での技術力の絶え間ないレベルアップと適応、および仕事として何が求められているかを正確に把握すること。(技術系職員) / 新しい技術との出会いを楽しむこと。前向きにコツコツ進めること。効率化を常に考えること。(技術系職員)



仕事で一番嬉しかった瞬間は？

小さなことでも大きなことでも、自身が行った業務で「助かりました」と言ってもらえたこと。(事務職員) / 審査官から「ありがとうございました」とのお礼の言葉をいただいた瞬間。(技術系職員) / 自分に対して良い評価がされた時。「助かった」「ありがとう」などと感謝された時。(技術系職員) / 自分の力が足りず仕事ができなくて目の前が真っ暗だった時期に、審査官から不意に「ぜひ、長くこの仕事を続けて欲しい」と言われたこと。もう無理だと思っていたが、ここに居場所があるかもしれないと思えた。(技術系職員)



お互いを尊重し助け合う風土

機械A部門 分析診断グループ R. M

主席部員と調査員の皆さんの業務をサポートするのが主幹の仕事です。元特許庁職員として、審査官の経験を活かして対話についてアドバイスすることもあり、うまくいったと報告を受けると嬉しくなります。急な欠員により案件の担当変更が必要になった場合でも、進んで引き受けてくださる方も多く、IPCCではお互いが助け合う風土があります。



いつまでも学び続ける志で

機械A部門 自然資源グループ H. W

先端技術に触れられる喜びが、日々の活力になっています。常に新しい知識を吸収するように心がけており、大学の公開講座を受講することもあります。中国や韓国からの出願も増えているので、少しでも理解を深めるために、最近ハングルの勉強を始めました。年齢に関係なく、学び続けながら仕事をできるIPCCには感謝しています。



信頼につながる
コミュニケーションを

化学部門
有機化学・化学応用グループ
T. T

この仕事でもっとも重要なスキルは、コミュニケーション能力です。審査官から何を求められているか、プロ意識を持って対応することが信頼につながります。審査官と息を合わせて仕事が進められると、達成感がありますね。コロナ禍以降はオンラインでの対話がメインとなりましたが、対話形式を問わず、思いやりの心で向き合う気持ちが大切です。



マイペース&
マイルールを大切に

電気部門
映像システムグループ
M. N

仕事を通して得意分野に携わり続けながらも、新しい技術はどんどんアップデートされていくので、特許を通して常に学び続けています。一人でコツコツと仕事を進められるIPCCでの働き方が、私には合っていると感じます。「疲れたら休む」「今日できることは明日に持ち越さない」など、自分なりのルールを大事にしています。



先行技術文献
調査は「宝探し」

電気部門
電気機器グループ
K. N

この仕事には「宝探し」のような楽しさがあります。過去の膨大なデータから「こんな発明があったのか」というものに出会えると、喜びを感じます。組み合わせの特許を調査する際に、まるで鍵と鍵穴がぴったり合うような、完璧な組み合わせが見つかるときがあるんです。まったく別の2つの特許が不思議とマッチする瞬間は、非常に嬉しいですね。



理想のワークライフ
バランスを実現

機械B部門
運輸グループ
H. T

IPCCに入団して一番の変化は、時間の使い方です。ここでは自分のペースで働けるので、時間を有効に使えるようになりました。早寝早起きの規則正しい生活を送ることで、睡眠不足になることもなく、仕事での集中力アップにもつながっています。精神的にも体力的にも、理想のワークライフバランスを実現できていると感じています。



発明を通じて
未来が見える仕事

機械B部門
生活機器グループ
K. W

生活機器グループでは身近な生活に密着した機器を扱うので、発明を通じて少し先の未来を肌で感じるができます。過去に調査をした発明が実用化されている場面に実生活で出会うこともあります。私はマジック同好会と太極拳同好会に参加していますが、それぞれ違う専門分野の仲間がいて、皆さん知識が豊富で本当にびっくりします。



特許審査を通して
技術発展に貢献

化学部門
生命工学・医療・食品グループ
K. Y

入団時に周囲の皆さんから教えていただいたことは、今でも非常に役立っています。私も新しく入団したメンバーをできるだけサポートするように心がけています。特許審査という公正な目を通して世に出た発明が、ゆくゆくはその技術で日本の発展につながります。国としての重要な部分に仕事を通して貢献できていることが一番の誇りです。



採用と研修でIPCCの発展をサポート

開発部 S. O

開発部では、主に人材の採用と入団者の研修業務を担当しています。私の入団時は職員数が約80名でしたが、現在は1400名以上の大きな組織になりました。IPCCは50代以降に入団される方が多いのですが、経験豊富なバックグラウンドだけでなく、2ヶ月強の研修に挑戦して突破するという、非常に前向きでパワーがある方々だと感じます。



業界No.1調査機関としての誇り

企画部 企画課 M. M

他業界からの入団でしたが、OJTでサポートしてもらいながら知的財産管理技能検定を受けるなど、積極的に知識を身につけてきました。業界No.1の調査機関として、お客様には自信を持ってIPCCの調査品質について説明しています。お客様から喜びの声をいただくと、優秀なサーチャーさんの存在がとても誇らしく感じます。



同好会でつながる
頼もしい仲間たち

機械A部門 応用光学グループ K. F

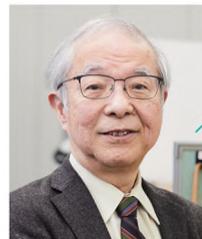
IPCCでは専門分野以外の案件を担当することも多く、最初は理解するのに苦労しました。知らないことを調べたり勉強したりするのは大変でもあり、同時に大きな楽しみでもあります。同好会の活動もIPCCの楽しみのひとつ。私は入団当初からずっと太極拳同好会に参加しています。同好会ではまったく別の分野の仲間と知り合えるので、わからないことがあったときには相談できるのが頼もしいです。再雇用で戻ってきたときも変わらず迎え入れてもらい、年齢に関係なく友達感覚で仲良くできるのがうれしいです。



フラットな人間関係が
心地よい職場

化学部門 樹脂・樹脂成形グループ M. I

「生涯現役」を目標としている私にとって、これまで培った知識を活かせると思い、IPCCに入団しました。皆さんがそれぞれ自分の仕事に取り組みながら、フラットな人間関係が築ける心地よい職場です。また、仕事環境が整っているところも働きやすいポイントです。入団して一番良かったと思うのは、同好会活動ですね。会社員時代では出会えなかったさまざまな専門分野の仲間と交流ができて、仕事で困ったときには得意なことを教え合っています。仲間とのコミュニケーションという点で、同好会の存在はとても大きいです。



知識と経験を活かし、
社会に貢献できる仕事

機械B部門 搬送グループ H. S

長く働き続けられるところに魅力を感じ、50代でIPCCに入団。73歳で定年退職した2年後に再雇用となり、在籍期間は20年を超えました。歳を重ねても元気に働く姿に、家族もみんな喜んでくれています。この仕事のやりがいは、何と言っても人の役に立てること。我が子と変わらない年齢の審査官さんに喜んでもらえる、大変嬉しく感じます。知識と経験を活かしながら最先端の技術に触れ続けられるのは、技術者冥利に尽きます。世の中の役に立つ特許に関わり、社会貢献ができていくことが誇りです。



多様な専門分野の仲間と
交流できる楽しさ

電気部門 画像処理グループ T. S

技術開発の現場と知財関係の現場では、言葉の使い方がまったく異なることもあり、最初は理解するまで戸惑いました。正直少し不安もありましたが、周囲の仲間がサポートしてくれたり、審査官の方が丁寧に教えてくださったり、とてもいい勉強になりました。IPCCでは、多様な業界出身の仲間と交流できるのが楽しいです。何歳になっても知識と経験を活かしてずっと仕事を続けられるのは、本当に素晴らしいことです。まだこの世に出ていない最先端の技術に携われるのが、この仕事の醍醐味ですね。

IPCCの同好会を紹介!

技術の発展と共に歩む

IPCC 40th

一般財団法人 工業所有権協力センター

CORPORATE IDENTITY DESIGN MANUAL

2025.4



一般財団法人 工業所有権協力センター 企画室

ロゴ一覧

● ロゴ 1



登録商標 6421631号 / 登録商標2054976号 / 登録商標3013741号

● ロゴ 2

一般財団法人 工業所有権協力センター
Industrial Property Cooperation Center

登録商標 6164936号

● ロゴ 3

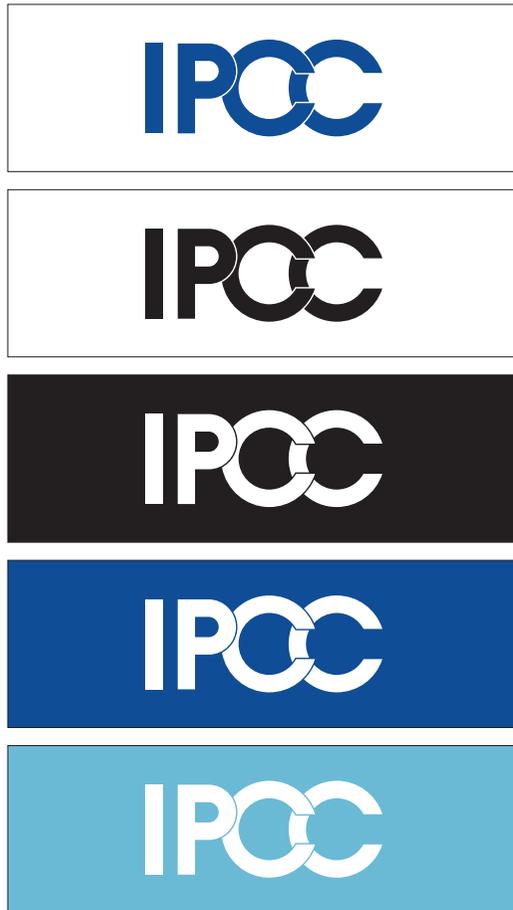


一般財団法人
工業所有権協力センター
Industrial Property Cooperation Center

ロゴの使用規定

● カラー使用例

可能な限りすべてにおいて、背景を含め以下のカラーを使用してください。
指定のデータを使用し、色味の統一感を心がけて表示してください。



※その他のロゴマークについても同様。

● 最小使用サイズ

最小使用サイズより小さな表示を禁じます。

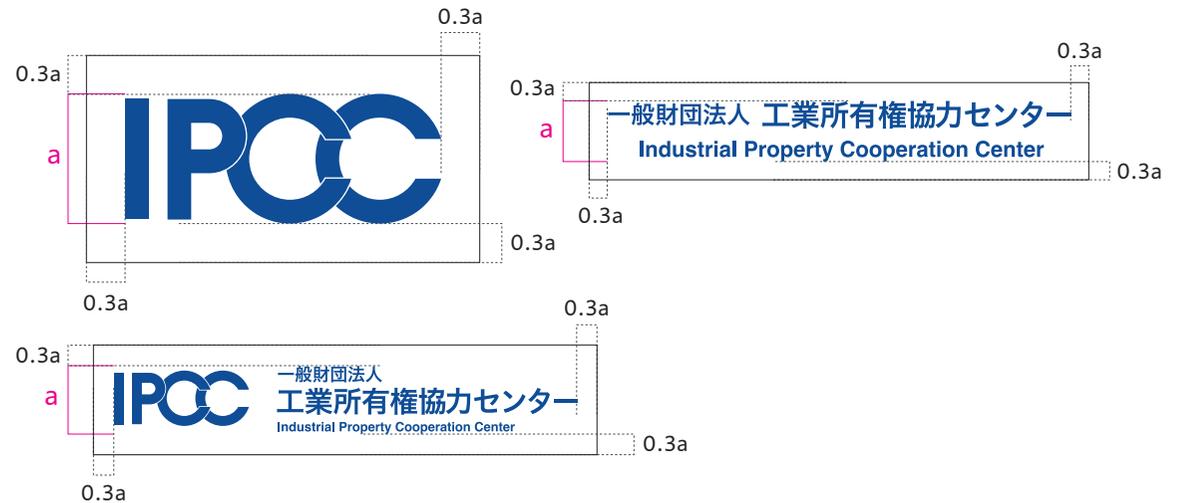


● 最小余白

イメージを保つために最小余白を設けます。

このエリアより内側に他のエレメントを入れることを禁じます。

※ただし、コーポレート・メッセージ、スローガン、キャッチコピーなどロゴと一体のものとしてデザインするものは例外として扱う。



コーポレートカラー

main color
瑠璃色

伝統色定義 JIS Z 8102:2001 (瑠璃色)
デジタル sRGB R:0 G:72 B:152 (Hex:#004898)
印刷 PANTONE 286 C

「瑠璃色」は、深い海や果てしない宇宙。IPCCの深い知識・専門性をもって、技術情報の海・宇宙から宝物や輝く星を見つけ出すイメージとして選定。

sub color
空色／天色

伝統色定義 JIS Z 8102:2001 (空色／天色)
デジタル sRGB R:115 G:184 B:226 (Hex:#73B8E2)
印刷 PANTONE 297 C

「瑠璃色」は、深い海や果てしない宇宙。IPCCの深い知識・専門性をもって、技術情報の海・宇宙から宝物や輝く星を見つけ出すイメージとして選定。

双方に共通する「青」により、公正さ、誠実さ、信頼性を表現しました。

使用禁止例

- 指定のカラー以外の色で表示してはいけない。



- 大きさやバランスを規定から変更してはいけない。(ロゴ3)



- 変形してはいけない。



- 他の書体で表示してはいけない。



- 規定にない組み方（縦組み等）をしてはいけない。



- 文字や絵柄の間隔を変更してはいけない。



- 視認性や特別性を損なう背景に使用してはいけない。



- 規定にない反転や装飾をしてはいけない。

